

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502194
法人名	医療法人 幸晴会
事業所名	こうせい苑グループホーム
所在地	八尾市北木の本5-6-1 (電話) 072-928-0313

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 10月 17日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算 17.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	22,000円	
敷金	有(円) ⑧			
保証金の有無 (入居一時金含む)	⑨ (250,000円) 無	有りの場合 償却の有無	⑩ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 8月 20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八尾徳洲会総合病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が母体であるグループホームで、4年半の実績をもち、他にケアプランセンター、ヘルパーステーション、デイケア、デイサービスなど事業展開しています。ホームの理念は「個別・自立支援」「その人らしさを尊重」「地域と和合して」「安全・安心」と定め、ホーム内に掲げています。職員は、家庭的な雰囲気の中で家事や趣味を通じて利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、生活を楽しくしてもらえるよう支援しています。調理は食材を仕入れ、利用者の得意分野やできる範囲で職員と一緒にいき、役割をもって生き生きとした生活を送っています。管理者も職員も向上心を持ち、外部研修にも積極的ですが、今後は法人全体としての研修に取り組み一層の充実を図る準備が進められています。地域の方が気軽に立ち寄り介護の相談をするなど、地域密着型サービスとしての役割を担っています。ホームの2階フロアには広いバルコニーがあり、季節の草花のお世話を利用者職員が行い、自由に出入りができ開放的な空間となっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の改善課題であった項目については、利用者の生活歴や希望の把握などできる限り利用者の立場になって一緒に考え支援し、アセスメントにより職員間で情報の共有をしています。また介護計画作成においては介護計画書の書式を検討し、目標設定を行った上で毎月のモニタリング記録も確認でき介護計画の見直しにつながることができています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票については職員全員それぞれに記入してもらい、ホーム長が中心となってまとめています。職員からは、自己評価で日々のケアの再確認を行う良い機会との意見もあがり、質の向上に向けたホームとなっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回定期的に開催しています。参加者は市職員、高齢クラブ会長、民生委員、利用者、利用者家族で、ホームからの報告や外部評価の内容について説明が行われています。また家族からの意見や要望もできるだけ聞かせてもらえるようにしています。参加者からの情報提供も多く地域の理解と支援が得られています。また運営推進会議で出た要望などにはできるだけ応えられるよう努め、職員全体で反映できるよう努力しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3ヵ月に1回季刊誌を発行し、ホームでの暮らしぶりや行事報告、行事の招待など連絡しています。その他身体状況の変化などがある場合にはその都度連絡しています。金銭管理については、1ヵ月に1度を目途に領収書のコピーを家族へ郵送し、発送日や送付先等の発送記録を残しています。玄関には要望箱を設置し、意見等を表せる機会を作っています。家族の訪問時には話やすい雰囲気作りにも配慮しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議の開催をきっかけに地域との関係ができ、高齢クラブの会長を中心に情報の交換を行い、地域での行事にも積極的に参加しています。毎年行われる地域の防災訓練にも参加したり、近くのスーパーへ買い物に出かけたりするなど、地域の方と交流を図り、馴染みの関係ができています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの独自の理念として目配り・気配り・心配りで「個別・自立支援」、優しく・親切・丁寧で「その人らしさを尊重」、地域と和合して「安全・安心」を掲げ、地域密着型サービスとしての役割を認識しつつ、できるだけ地域の方との交流を大切にし、馴染みの関係作りにも力を入れています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体会議やフロア会議などで理念の共有化を図り、職員も利用者の個別的支援や地域との交流を深められる環境作りを心がけ、日々の支援に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	運営推進会議の開催をきっかけに地域との関係ができています。地域の高齢クラブ会長を中心に情報の交換を行い、地域での行事にも積極的に参加しています。外出時の挨拶や開設以来4年間の実績によって、職員や利用者との顔見知りができ、介護相談に訪れる近所の方もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で示された事項は、ホーム長を中心に職員全員で検討し取り組んでいます。具体的に書類の検討を行い、改善を行っています。自己評価は職員全員に記入してもらい、日々のケアの再確認を行うことにもつながり、質の向上に向けたホームとしての前向きな姿勢が見られます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回、定期的開催し、会議録も残しています。参加者は市職員、高齢クラブ会長、民生委員、利用者、家族、職員が参加しホームからの報告や外部評価の内容についての説明を行っています。また家族からの意見や要望も聞ける機会になっています。参加者からの情報提供も多く、地域の理解と支援が得られています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市の職員に相談や問い合わせをするなど情報交換し、地域行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3カ月に1回季刊誌を発行し、ホームでの暮らしぶりや行事の報告お誘いなど連絡しています。その他身体状況の変化などある場合にはその都度連絡しています。金銭管理については、毎月領収書のコピーを家族へ郵送し、発送日や送付先等の発送記録を残しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には要望箱を設置し、意見等を表せる機会を作っています。家族の訪問時には話やすい雰囲気作りに配慮しています。また運営推進会議で出た要望などにはできるだけ応えられるよう努め、職員全体で反映できるよう努力しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の仕事状況や言動などから、職員の变化や状況をキャッチしています。管理者は職員から気軽に相談等ができる機会を作り、できるだけ離職を最小限に抑える努力をしています。新人職員には利用者の介護方法や接し方などのマニュアルを作成し、先輩職員が同行して利用者には不安を与えないように引き継ぎを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の必要性や重要性を強く感じており、積極的に外部研修や「緊急時対応」「認知症」「感染症」の研修に参加しています。また、今後は一層法人として職員研修の充実に取り組む計画があります。職員採用時の研修マニュアルを作成し、実施しています。しかし、研修を行った記録が残されていない状況です。	○	今後は実施した職員採用時研修も他の研修と同様、記録に残すことが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者連絡協議会の中にあるグループホーム部会に加入しています。八尾市内の19か所のホームが参加し、お互いの施設見学や勉強会などを計画し実施しています。また大阪認知症高齢者グループホーム協議会にも加入し、同業者同士の交流があり、情報交換やお互いの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはいきなり入居を決めるのではなく、家族にもホームを訪問してホームの様子を見てもらったり、ホーム長が自宅を訪問しその方の今までの生活状況や、生活環境について家族から話を聞いたりしています。体験入居も行っており、徐々に馴染んでもらえるよう配慮しています。併設のデイサービス利用者が入居されることもあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	裁縫の得意な利用者から雑巾の縫い方を教わったり、編み物を教わったりできるような場面作りを提供し、生活の中で分かち合い、ともに支え合える関係を築いています。家族の話をよくする利用者が、家族に会うことで顔色がとてもよくなり、家族の大切さや思いを職員も共感しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートの活用により、今までの生活歴や暮らしぶりを知り、利用者の思いや希望をできるだけ把握していくよう努めています。また話やすいような声かけを行い、難しい場合は表情などから様子を伺う個別ケアを心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の支援経過記録や利用者の変化について話し合っていることを反映し介護計画作成に生かしています。より具体的なカンファレンス実施記録の作成が望まれます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際には、アセスメント、モニタリング、カンファレンスの記録を確認し、書類にもまとまりがあり、わかりやすく綴っています。職員の支援経過の記録をもとに利用者の状態変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者は併設デイサービスを利用している友人と自由に会うことができ、デイサービスの職員や利用者とも馴染みの関係ができています。また地域の方が家族介護のことで相談に来た時は事業所としてそのニーズの把握に努め対応できる体制がとれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られた、かかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	ほとんどの利用者が母体法人であるクリニックがかかりつけ医であり、月2回往診があります。また同法人から訪問看護師が毎日訪問しており、日々の心身の状況把握や緊急時対応など迅速に行えるよう連携が取られています。希望により専門医など他医療機関への受診も支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針は文章としてあり、家族に対しては入居時に説明を行っています。引き続き、利用者と家族の安心、納得を得られるよう関係者との話し合いの場を積み重ね、今後の支援につなげてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が手伝ってくれたことに対しては「ありがとうございます」と感謝の言葉をかけ、また利用者に対し尊重した言葉かけや態度で接しています。入職時には個人情報の保護に関する書類に署名し、秘密保持の徹底を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっていますが、個別性を大切に考え一人ひとりが思い思いのペースで生活を送れるよう配慮しています。ハーモニカやコルネットの得意な利用者が皆の前で披露すると、それに合わせ他の利用者が音楽を口ずさんだり、手をたたいたりして楽しんでいます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から配達してもらっていますが、職員と一緒に野菜を刻むなど、調理も手伝っています。テーブルを拭く、配膳を手伝う、食器を拭くなど利用者は積極的に参加しています。若い職員が味付けや盛り付けを教わることもあります。月に1回程度は利用者の希望を聞き献立表を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの利用者が週3回入浴しています。特に入浴日を決めておらず、いつでも好きな時に入浴できるような配慮をしています。入浴回数が少ない利用者には清拭や足浴、着替えなどの声かけをしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物が得意な利用者にはソファのカバーを編んでもらったり、裁縫が得意な方には雑巾作りやボタンつけをお願いしたりして、利用者一人ひとりが力を発揮できる場面を作っています。利用者が自分の役割として菜園の水遣り、朝刊や夕刊を取りに行くことを日課とし張りのある生活をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩したい利用者は近くのコンビニへ出かけたり、ホームの周りを散歩したり、遊歩道まで足を伸ばしています。できるだけ利用者の希望にそった支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠しています。日中は各フロアともエレベーターの暗証番号を解除し、玄関は開錠しています。玄関先に音の出るセンサーを設置していますが、その音で利用者が混乱することはありません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回行われる地域の防災訓練に参加しています。また2カ月に1回「避難経路の確認」を職員と利用者が一緒になって行い、確実な避難誘導ができるよう日頃から努めています。水、即席ご飯、乾パン等、災害時の備蓄も準備できています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分摂取量はチェックして記録しています。嚥下が困難な方には刻み食やトロミをつけるなど工夫しています。栄養バランスについて専門家にアドバイスを求める機会があります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階には広いバルコニーがあり食堂、居間から自由に入りができ解放感があります。ベランダには草花を置き季節感があります。各フロアにはテーブルとイスの他にソファや畳敷きの居間があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができます。共用空間はゆとりと清潔感があり、利用者と職員の協同作品にも季節感があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームでは居室内に手動式介護用ベッドを準備していますが、それ以外は自由に持ち込みができます。利用者は昔、趣味で手作りしていた木目込み布絵の作品を飾り、また家族との写真を飾っている方もいます。家族の訪問に備え、畳を使用時に敷き、家族と利用者が楽しく団欒できる工夫をしています。</p>		